

## 村人と一緒に演奏する

てらだ よしたか  
寺田 吉孝

民博 学術資源研究開発センター



村で演奏させてもらいました  
古老たちと演奏する筆者（中央）（プトアン市、2002年）

独特の音の体系をもつフィリピン南部の音楽。その美しい音楽の世界が紛争に巻き込まれ、存在を危うくしている。ゴングの演奏をとおして関心をもち、研究を続けてきた筆者が音楽の未来に願うものとは……。

わたしがまだ学部生だったころ、クリンタンとよばれるゴングと太鼓で奏でる音楽を習った。フィリピン南部に住むイスラム教徒により伝承されてきたこの音楽を、フィリピンではなく、フィリピンからアメリカ合衆国に移住した二人の演奏家から教わった。クリンタンはそれまでわたしに慣れ親しんでいたこの音楽ジャンルとも異なっており、未知の領域に踏み込む興奮も手伝って、一生懸命練習したのを覚えている。当時はフィリピンに対して特別な思いがあったわけではなく、音色や音の組み立て方など音楽上の関心からのめり込んでいった。

一九九〇年代はじめには、師匠たちが結成した演奏グループに誘われてメンバーとして活動することになった。グループは国の助成金などを得て、北米各地で公演活動をしていたので、ロサンゼルスにあるハリウッドボウルのような巨大会場から、メイン州にある田舎町の小さな教会のチャペルまで、さまざまな場所でさまざまな聴衆に向けて演奏した。

### 村での演奏

グループでの活動にも慣れてきた一九九三年、師匠の一人に付き添って初めてフィリピンを訪れた。現地では、わたしは彼の弟子として紹介されるので、どこに行っても演奏することを求められる。村人たちの生き生きとした演奏のあとで、わたしが出て行くのは勇気があるのだが、素晴らしい演奏者たちと共演できるのは夢のような機会でもある。しかし、初めてそのような機会が与えられたとき、「ある程度できる」と思っていたそれまでの自信は吹っ飛んだ。村人たちの熱い視線もさることながら、彼らの創り出す音が圧倒的な存在感をもっていたからだ。クリンタンは打楽器のアンサンブルなので、元来大きな音が出るのだが、彼らの打ち方は強烈で、自分が演奏しているはずの音がよく聞こえない。舞台上マイクを使う比較的ソフトな演奏法に慣れていたので、頭のなかで真っ白になった。

異なるのは音の大きさだけではない。村で演奏していると、共演者の

フィリピン  
ミンダナオ島



古老たちが醸し出すゆったりとしたグルーブ感は格別  
(ダトゥ・ピアン、1993年)

打ち出す音が別々ではなく、ひとつの大きな塊となって全体を包み込む。このような音の洪水に見舞われると、自分という境界がぼやけてくる。自分の意志で楽器を打っているのに、制御している感覚がない。音の渦に溺れて間違っただけではないと感じる自分がいる一方で、誰かが自分の腕を動かしているような不思議な安心感もある。言いあらわすのは難しいのだが、これは一種のトランス状態なのだろうか。この経験の境に、音楽をパートごとに分析することの限界を強く意識するようになり、その後の音楽のとりえ方に大きく影響したように思う。

### 音の洪水の行方

この音楽が演奏されてきたミンダナオ島西部は、今でも政情が極めて不安定だ。一九七〇年代よりイスラム分離主義集団と政府軍とのあいだで断続的に戦闘が続いてきた。二〇一七年五月にはイスラム国の支援を受ける武装集団マウテが蜂起し、ムスリムの中心都市のひとつであるマラウイ市を占拠したことは日本でも大きく報道された。政府軍が空爆をおこない、マラウイは戦場と化した。民博はこの街で二〇〇八年に映像



クリンタンの演奏がおこなわれたこの建物は、2017年の空爆で破壊された（マラウイ市、2008年）

取材をおこなったが、音楽演奏を記録した建物も爆撃で破壊された。このような状況のなか、多くの村人たちが難民となつて離散し、音楽演奏の母体となつているコミュニティが数多く壊された。特に子どもたちがクリンタンの演奏を聴きながら育つ環境が徐々に失われてきたことは、この音楽の伝承にとつ

て大きな痛手である。もう一人のわたしの師匠は、このような状況に心を痛め、若者たちに向けてネットで情報発信をしている。村でわたしが演奏する姿をネット上で公開するのも、クリンタンが時代遅れな音楽ではなく、外部者も興味を示す普遍的な価値をもつことを伝えるための戦略である。自分の拙い演奏がネット上で流れ続けるのは気が重いのだが、もし師匠が願うような効果が少しでも生まれるのなら喜んでその役を引き受けよう。あの圧倒的な音の洪水のなかに存在できる至福が、ずっと受け継がれていくことを祈って。



ネット上で公開されている映像のひとつ。ここでは筆者（右）の演奏に合わせて村人（中央）が踊ってくれた（ダトゥ・ピアン、1993年）